

学習者の学びを促進させる教師の単元展開の実践的思考の研究

最終更新日：2019年4月26日

【プロジェクト代表者】
教職実践講座教育実践力開発コース
講師 坂井 清隆

キーワード

「単元展開の様相—解釈」 D-OODAサイクル 教師教育

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

本研究は、教師の単元計画と実際の展開との「差異」に着目し、子供の関心事やこだわりを適切に捉えて単元展開に生かそうとする教師の実践上の意思決定の姿を明らかにすることを目的としました。この研究目的を達成するために、以下のような実施計画及び方法で取り組みました。

- (1) D-OODAサイクルモデルの検討と教師の単元展開に総合的に働く諸能力の析出及び「単元の様相—解釈」の枠組みの提示
 - (2) 研究協力者による実践及び「単元の様相—解釈」を行うための分析資料の作成
 - (3) (2)の資料をもとにした研究協力者との検討会の実施、及び教師の実践的なD-OODAサイクルに関する考察と検討
- (1) まず、D-OODAサイクルモデルに関して、教育実践への援用方法や実践上の留意点について明らかにしました。次に、単元展開を明らかにするために「単元の様相—解釈」の枠組みに関して、単元の構造的全体像を、【単元の流れ：計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】の観点に基づいて図化（＝様相）し、単元が生成・発展していく関係性の分析・検討（解釈）の枠組みとして設定しました。
- (2) に関しては、共同研究を行っている学校の教師（K教諭：研究主任）に協力を依頼しました。その先生に年間2回のD-OODAサイクルモデルを取り入れた実践を行っていただき、その実践を対象に「単元の様相—解釈」のための資料を作成しました。
- (3) に関しては、研究協力者の先生と共に授業実践に対して「単元の様相—解釈」を行い、その際のインタビューやリフレクションの記述の検討・考察を通して、単元展開の改善に向かう実践的な「D-OODAサイクル」の有り様を明らかにしました。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

本研究は、特に教師の「単元展開」を対象としたものです。教師にとって、カリキュラム（ここでは単元の意味）を自ら開発・構成し、子供の学びに応じながら柔軟かつ弾力的に展開していくためには、かなりの経験知を積み上げていく必要性があります。このことを踏まえると、特に、若い先生方が、より実効性のある単元レベルのマネジメント（子供の学びを促進させるような臨機応変なマネジメント）を実践できるようにするための研修プログラム等の構築は喫急の課題であると考えます。

2017年に告示された学習指導要領総則において、これまで、管理職が中心に行ってきた教育課程レベルのカリキュラム・マネジメントが、単元レベルや日常的な授業レベルにおいて、どの教師にも求められることになりました。そのため今後、教科等横断的な学習（単元）設計力・評価力としてのカリキュラム・マネジメントに着目した実践研究を進めていく必要があります。本研究の成果は、そのようなカリキュラム評価研究に援用・拡大していくことができます。例えば、教員育成指標のキャリアステージ基礎期において、経験豊かなベテラン教師の単元展開の事例を数多く組み込んだ研修等の実施を行っていくことは、若手教師の単なる教育技術の向上に留まらず、学び続ける教師としての信念や教育観の深化を図っていくことも期待できます。そのためには、教育方法学、特に授業研究を学問的専門とする大学教員の協力や支援が欠かすことができません。我々大学教員は、ぜひそのような研修等に貢献していきたいと考えます。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成30年度福岡教育大学研究推進支援プロジェクト経費

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

福岡教育大学教職実践講座（教職大学院）
教育実践力開発コース
講師 坂井 清隆